

## 平成24年度大阪府がん対策推進委員会 第2回がん検診部会

日時：平成24年11月20日（火曜日） 18：00～20：00

場所：大阪がん循環器病予防センター 6階 研修室

### <出席者>

中山部会長、相川委員、植田委員、加納委員、西田委員、古河委員

### <事務局>

大阪府健康医療部保健医療室健康づくり課

課長 永井伸彦、課長補佐 瀬戸山貴志、総括主査 野内修二、総括主査 嶋口真一、  
主査 奥田哲司、技師 中島有紀、主事 比嘉知香

大阪府がん循環器病予防センター

副所長兼調査室長 山崎秀男、主任 池宮城賀恵子、技師 政岡望、技師 厚海明香

大阪府立成人病センター企画調査課

参事 井岡 亜希子

### <議事次第>

1 開 会

2 議 事

(1) がん検診事業評価について

(2) 大腸がん検診における精度管理について～組織型検診推進委託事業より～

(3) 第二期大阪府がん対策推進計画について

(4) その他

3 閉 会

＜議事内容＞

(1) がん検診事業評価について

結論：事業評価を A～E に評価し、ホームページに公表する事については、再度 A～E の基準も検討し、事務局にて再考することになった。

精検受診率 70%未満の市町村への通知文についても、内容を再検討する。

委員からの意見

- 一般府民に対してどのような意味はあるのか。
- どの項目が悪いかわからない。
- 各がんごとで、項目数も異なるので、実施できている率で示す。
- C 以下を要改善ではなく、平均以下を要改善にする。
- 一旦案で実施し、現状の C を B に、B を A に改善された段階で、次の基準を決める。
- 各市町村ごとに、評価のよくない理由を記載する。
- 満点を基準に評価した方がいいのではないか。
- 評価をしても、市町村が行動を起こさなくては、意味がないのでは。何かペナルティを課すべきでは。
- 評価することで、プレッシャーはかかるのでは。
- そもそも周りの市町村の状況を知らないのでは。それを示していくための公表ではないか。
- C 以下を要改善としているが、B にすべきでは。各がんによって異なるかもしれないが。
- 精検受診率 70%未満の市町村への通知文を発出する際に、プロセス指標に一覧を添えて発出するのはどうか。HP に掲載されているが、再度個別に送付する。

(2) 大腸がん検診における精度管理について～組織型検診推進委託事業より～

結論：市町村あて通知文書発出を行う

委員からの意見

- 精検受診率が低いのは、カットオフ値で要精検率を下げている事もある。学会で改善されるような話はでてないか。
- 目標とすべき要精検率は、それにあうカットオフ値にしないといけない。集団検診は、対象が多いので実施することができるが、個別検診は対象が少ないので難しいのでは。大阪府としてカットオフ値のガイドラインを作成するのはどうか。
- 通知文もリーフレットも内容については、これで構わないと思う。

### (3) 第二期大阪府がん対策推進計画について

結論：ハイリスク者とう文言部分について検討する。

それ以外の項目については了承。

委員からの意見

- コールリコールについて、更に強調して記載してほしい。  
重点対象者の設定は、全ての対象者へ郵送料が予算的に厳しいと聞くので、いいと思う。
- ハイリスク者に的を絞るのは、子宮には適していない。  
また、ハイリスク者という言葉はわかりにくいのでは。
- 大腸がんの精検受診率が低いのは、キャパが少ないからなのか。  
(事務局回答：過去に調査した結果、キャパが少ないという状況ではないという事はわかっている。しかし、注腸検査など、指針外の検査を行う医療機関もあるということもわかっている。)
- コルポや生検ができるキャパがない(子宮頸がん)。その調査も必要ではないか。
- 大腸ファイバーができる医療機関が少ないと聞く。  
また、検査内容が億劫だという声も聞く。  
大腸について、精検機関リストは作成していないのか。  
乳腺は学会の基準があるが。  
⇒回答：乳腺ほど、周知されていない。胃がんほど知名度のある検査でもない。  
イギリスで、精検受診率が高い理由は、一定の基準で検査機関を絞っているからである。  
内視鏡学会の認定を使ったリストを作成するなどが方策としてはある。
- 大腸内視鏡検査を受けるにあたって危険な年齢はあるのか。  
⇒回答：特にない。
- 胃がんは、若い人の罹患が少ないので、重点から外れるのではないか。
- 胃がんは、若年層は減っている。35歳からがん検診の対象としている市町村もあるのでは、変えていかなければならない。
- 日本産婦人科医会では、上限を設定すると聞いている(平成25年度から)。  
また、HPV検査で3年以上陰性の方は検診対象外とするなどという話もでている。
- P40の受診率の考え方について、意見いただきたい。  
⇒回答：5がん全て50%は厳しいのでいいと思う。また、子宮でいうと、受診率が30%超えると、受け皿のキャパが足りなくなる。(細胞検査は、1日90枚が限界)